

大島郡医師会だより

No.99 2023.10月号

医師会病院
虹訪問介護事業所
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター

発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町3-10
TEL0997-52-0598
FAX0997-54-0597
印刷 南海日日新聞社



大島郡医師会のこれから

大島郡医師会
会長 稲源一郎

執筆時には奄美での新型コロナ感染症は徐々に減少しているとは言え、毎日発熱外来を訪れる患者は絶えず、一般診療と発熱外来を行き来している毎日です。分類上2類相当から5類に変わり、また発熱患者も新型コロナウイルス感染症に対する理解も深まり、以前あったような極端な罹患者への誹謗・恐れは少なくなっています。

世界遺産に登録され喜ばしいことに観光客が増えています。飲食店街である屋仁川の裏に住んでいる身としては、夜間の喧嘩も以前とは異なり、心躍る刺激となつています。一方、観光客の増加に伴い水難事故が増え、交通事故も多岐に聞いています。対応すべき医療体制に

そのように職業、家庭環境などの必要に応じて抗原定性検査で陰性の場合にはPCR検査を受けている方も居ますし、自分で抗原キットを使用し陽性となり、鎮咳剤・解熱剤などの処方依頼の方もいます。宿泊施設での療養も9月15日を持って終了となりましたが、後方支援病院の対応もあり大きな支障は無かったと考えます。施設内でのクラスターも一部発生しましたが、前回の教訓もあり大きな問題点の報告は受けていません。以前の状況を考えると医療機関としての困りごとはスタッフが感染した際の対応が困難となる事

です。非感染者での対応を強いられるのですが、開業医が罹患した際には替えが効きません。今後再び起こりえる新興感染症に対しての体制確立が進んでいきます。いかなる事態でも想定外が無いよう日頃の心掛けが求められ、大島郡医師会としても柔軟に対応できる体制を考えています。

です。実情に則した体制作りを関係機関のみでなく地域住民の声と共に完遂すべく策を練っています。地域医療・介護・福祉に関しては、高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定が進んでいます。並行して地域医療構想調整会議も進められています。住み慣れた場所、最後まで人生を謳歌できる地域づくりを実現するためには、医療と介護の両輪のバランスが大切です。慎重に事を進めていく必要があります。成し遂げるには俯瞰的視点が必要です。偏るところの切なる思いを踏みにじる事になります。資源の異なる地域です。地域地域で可能な折衷点を探る必要があります。地域格差に対しては公的な介入が必要です。故に各関係機関行政との密なる連携が鍵となります。そのような地域づくりは次の世代の礎となり、関係機関のみならず、一住民として共に考えることが継続可能な形骸化しない地域づくりにつながるかと確信しています。

地域温暖化の影響により災害による突発的な事項を含めて様々な事態が予測されます。これまでも各機関で対策を取っていましたが、より連携性のある体制づくりが求められています。今年の長期にわたる定期航路船の欠航は食料のみならず、薬剤を含めた医療関係の問題も浮き彫りになりました。今後の非常事態に対応可能な体制づくりを考えています。先日奄美本島のみですが、各地区の会員の先生で協議の場を設けました。まずは各地域での実情を把握し、行政との連携確認から始めることを確認しました。次の手段として地域間の連携による応援体制の確立に向けて構築する予定です。その後に各離島間での体制作りも必要です。

今後の地域としての医療・介護の在り方を慎重に考える時が来ています。人口減少は、働き手の減少のみならず、患者・利用者も減少します。地域ごとの体制作りが求められています。まさに今後の医療・介護の両輪のバランスが求められています。望んでいる人生終焉に関し、寄り添いたいと考えています。そのためには在宅医療の充実と、施設での入所のみならず、施設での看取りの体制も必要です。

今後、大島郡医師会に求められるのは、住み慣れた終の棲家での謳歌できる人生に添えるべく、医療的・介護的介入について支援する事と考えています。

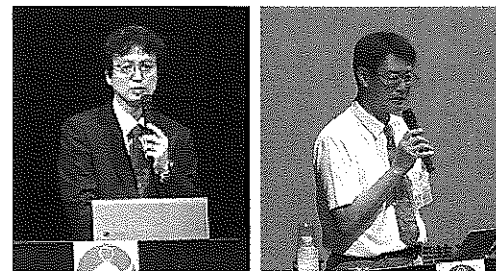
令和元年度以来に「救急医療講演会」を開催

当医師会では、島民向けの救急医療の普及・啓発のため、救急医療週間(9/3~9/9)の9月8日(金)に、アマホームPLAZA(市民交流センター)に於いて「救急医療講演会～島のみなさまに伝えたい～」を開催しました。

開会后、講演に先立ち、医師会長(稲源一郎先生)の挨拶のほか、奄美市長(代読:諏訪副市長)からの来賓挨拶をいただきました。その後、県立大島病院麻酔科部長の大木 浩先生から「離島の緊急手術と輸血供給体制～奄美群島には血液備蓄所の再設置が必要です～」と題したオープニング講演を、続いて、県立大島病院臨床研修センター長兼総合診療科部長の森田喜紀先生から「コロナを越えてこれからの奄美」と題した特別講演を行っていただきました。

ご来場者された約140名の方々熱心に聴講されている姿を舞台袖から拝見し、血液備蓄所設置の必要性や今後の新型コロナとの向き合い方に関して、住民の皆様がいっそう理解を深めることができたのではないかと感じました。最後は、救急医療担当理事(朝沼 榎先生)の挨拶をもって閉会し、約2時間半の講演会は無事終了となりました。

コロナ禍により、令和2年度から3年間開催見送りとしてきた救急医療週間行事であります。今回の開催をきっかけとし、島民によりマッチした救急医療の普及・啓発内容を見出して、また来年度以降の企画に活かしていきたいと思っております。



森田喜紀先生 大木浩先生

大島郡医師会在宅医療連携支援センター

★開設10周年を迎えて

令和5年(2023年)10月15日に当センターは開設10周年を迎えます。

これまでの10年間、「Ageing in Place(エイジング・イン・プレイス)」の実現を目指し、医療・介護サービスが一体的に提供される仕組みを構築するために、医療・介護サービスの提供者間、提供者と行政間など様々な関係者間の調整を担う拠点として活動してまいりました。

具体的には、当初の2年半は、「鹿児島県医師会から委託されたモデル事業(在宅医療推進地域支援事業)」、その後の7年半は、「奄美大島と喜界島の1市3町2村からの委託事業(在宅医療・介護連携推進事業)」の一環として、医療と介護の連携に関わる専門職から相談を受け、多職種向けの研修会(地域包括ケア交流会、在宅医療連携支援研修会等)を企画・運営し、地域住民向けの普及啓発(健康教室における

口腔講話の講師等)を行ってきました。また、大島郡歯科医師会の協力を得て、口腔に不安を抱える地域の方々への歯科衛生士による訪問支援を開始して実績を積み重ねてきました。

これからの10年間は、これまでに果たしてきた役割の質を一層高めるとともに、行政の関係者(各市町村や名瀬保健所の職員の方々)のみならず、基幹病院である県立大島病院をはじめとする島内の医療機関や介護保険事業所のスタッフと図るコミュニケーションを更に深化させながら、奄美群島における地域包括ケアの完成形に向かって大きく前進する推進力としての役割を果たしてまいります。

運用中の「つむぐネット」 <http://www.amami-tsumugu.net/>



【第54回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:「障害分野のリハビリテーション」

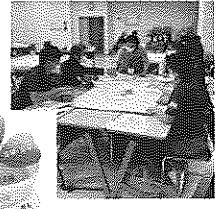
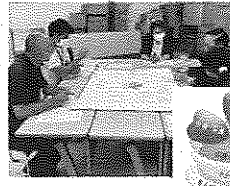
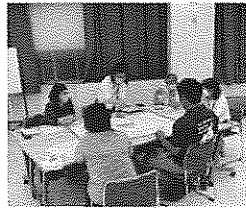
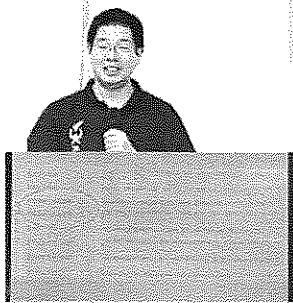
開催日時: 令和5年6月26日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

1. 講話:「障害福祉分野のリハビリテーション」

講師: 株式会社 和月 統括マネージャー 白浜 幸高 理学療法士

2. 植木鉢図を使った事例検討(グループワーク)

～事例検討で、もっと知りたいこと、自分の役割や、連携したい職種は?～



6月26日(月)に第54回地域包括ケア交流会が開催されました。これまで交流会では「リハビリテーション」に関連したテーマ(「急性期」、「回復期」、「生活期」のリハビリテーション)で、様々な分野の専門職の方々の講話と多職種での意見交換(事例検討)を行ってききましたが、今回は「障害分野のリハビリテーション」をテーマに、株式会社和月の統括マネージャー白浜 幸高 氏の講話と多職種での事例検討を行いました。

「障害福祉分野のリハビリテーション」と題した講話では、障害福祉でのリハビリテーション、共生型サービス、事例の紹介がありました。

介護保険サービスと障害福祉サービスとの関係や障害福祉における「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」等の制度を詳しく説明していただき、続いて白浜さんの事業所で取り組んでおられる「共生型サービス」についてその概要、実際の様子等を動画を交えながら紹介され、その魅力について語っていただきました。地域生活の中で障害のある方がリハビリテーションを受けることのできる仕組みやその実際について理解を深めました。

後半のグループワークでは、事例をもとに、様々な職種が意見交換を行い、ご自身の役割や、連携したい職種について時間いっぱい語り合い、会終了となりました。

【第55回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:「高齢者の保健事業と介護予防の一体実施」

開催日時: 令和5年8月28日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

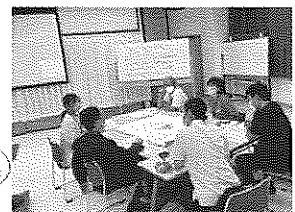
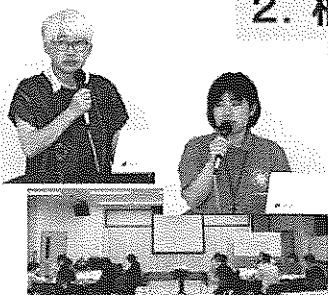
1. 講話「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の推進について」

講師: 久保 倫子 保健師(後期高齢者医療広域連合 一体化実施に係る現地支援アドバイザー)

森田 みのり 保健師(龍郷町保健福祉課後期高齢者保健事業係)

2. 植木鉢図を使った意見交換(グループワーク)

～もっと知りたいこと、自分の役割や、連携したい職種は?～



問合せ先: 大島郡医師会
在宅医療連携支援センター
(TEL0997-55-6381)

8月28日(月)に第55回地域包括ケア交流会が開催されました。今回は「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」をテーマに、お2人の保健師の方々の講話と、多職種での意見交換を行いました。

まずはじめに、後期高齢者医療広域連合 一体化実施に係る現地アドバイザーとして活躍の久保倫子保健師より「人生100年時代を見据え何をすべきか」ということで、様々なスライドで、名瀬保健所管内の今後の推計人口、鹿児島県の後期高齢者の保健・医療・介護の現状、高齢者の健康状態の特性等についてお話しされ、今なぜ「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」が必要なのか、その目的と取り組む内容について説明がありました。続いて、名瀬保健所管内でいち早く一体化事業に取り組みされた龍郷町での実施内容について、担当の森田みのり保健師が、具体的なアプローチ方法や専門職関与についてイラストを交えながらわかりやすく紹介してくださいました。医療・介護のデータ分析等から疾病予防・重症化予防に向けて、保健事業と介護予防事業を一体的にコーディネートしていくそのプロセスや、生活の場に保健・医療の視点からの支援が加わることや、かかりつけ医等との効果的な連携等により、住民の方々の健康寿命の延伸に向けて新たな取り組みが各市町村で始まっているということを知る良い機会となりました。後半のグループワークでは、医師や、ケアマネジャー、保健師の方々などが、それぞれの立場でできそうなこと、多職種・多機関との連携の必要性等について自由に語り合い、和気あいあいとした中、会は終了しました。

医療法人 南溟会 宮上病院



*タイ国より特定技能 3名が入職しました!

宮上病院隣接の「老健施設サザンコート」では、本年からタイ国より3名の特定技能者を受け入れています。名称が似ていますが、一般的に知られている「技能実習」とは異なります。特定技能制度は、一定の専門性や日本語能力を持つ外国の方を受け入れる制度であり、当施設に入所した3名の方々も、タイ国で大学に進学し、一定の日本語能力を持ち、さらに介護に関する教育も受けています。

受け入れに際しては、新型コロナウイルスの流行の影響を受け、面接はオンラインで行われたり、入国が遅れるなどの課題に直面しました。しかし、昨年の12月末に入国し、本年からサザンコートで介護業務に従事しています。この受け入れを通じて感じるのは、3名の特定技能者の素晴らしい笑顔です。

タイは「ほほえみの国」と称されることもありますが、彼女らの笑顔はまさにその名にふさわしいもので、入居者様だけでなく、職員にも良い影響を与えています。彼女らを迎える決断は正しかったと感じています。

特定技能制度においては、転職が認められており、制度上認められる5年間当施設での勤務を続けることができるよう、職場環境や待遇の向上に努めて参ります。



「奄美大島・喜界島 入退院時連携の情報共有ルール」 について意見交換(ケアマネジャー事業所・病院・有床診療所)

「第7回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会」

日時：令和5年7月19日(火) 18時30分～20時

場所：①メイン会場：大島支庁 4階大会議室 ②サテライト会場：喜界町役場トレーニング室

対象：名瀬保健所管内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターの各事業所のケアマネジャー(メイン会場は各事業所から1名のみ)及び病院、有床診療所に所属する入退院に関わる看護師・社会福祉士等

7月19日に、第7回奄美大島・喜界島 在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会が、奄美大島と喜界島の2つの会場をWebシステム(Zoomミーティング)でつないで開催されました。居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターのケアマネジャーと、病院・有床診療所の医師や入退院に関わる担当の方々、運営スタッフ(管内の地域包括支援センターや名瀬保健所、大島郡医師会)を含め総勢65名の参加となりました。

名瀬保健所の相星壮吾所長より「地域包括ケアシステムの構築のためには、医療と介護の良好な連携が重要である」という主旨の挨拶で始まり、「奄美大島・喜界島 入退院時連携の情報共有ルール」の説明、令和4年度「奄美大島・喜界島 入退院時連携の情報共有ルールに関するアンケート調査の結果報告」があり、「病床機能報告に基づく病院・有床診療所のイメージ図(名瀬保健所管内)」や「ケアマネジャーの業務について」の資料の内容を共有した後、患者様利用者様の安心を目指して、お互いのより良い入退院時の連携に向けて意見交換を行いました。

閉会の挨拶で、大島郡医師会の稲源一郎会長は「医療介護連携でAgeing in Placeの実現を目指してきた。入退院時の連携での課題も浮き彫りになったのでは。今回のグループワークでお互いの所属する機関がどのような体制で働いているのが良かったと思う。顔の見える関係から、息づかいのわかる関係となるにはこのような機会が重要。今後も開催できるよう医師会としても皆さんと一緒に考えていきたい」と締めくくられました。

～メイン会場(大島支庁)の様子～



メイン会場の皆様

～サテライト会場(喜界町役場)を Zoom で中継～



サテライト会場の皆様

大和村地域包括支援センター
保健師 田中あさみ 氏が司会進行

～それぞれの会場でグループワーク(意見交換)を行いました～

虹の丘だより

★舟こぎ競争

令和5年8月12日

奄美まつりの「舟こぎ競争」が行われました。台風の影響で八月踊りとパレードが中止、花火大会と舟こぎ競争は一週間延期での開催となりました。

虹の丘からは男子チームが2チーム、女子チームが1チーム参加しました。7月から新型コロナウイルスの感染も徐々に拡がり、全員揃っての練習は一度も出来ないままの本番となりましたが、全チームが予選を通過するという結果にテント内は大盛り上がりでした。男子チームの2回戦は虹の丘2チームが同じ組に入り、総出でレースに臨みました。これまで何度も舟こぎ競争には出ていますが、同じ組で漕いだのは初めてで良い思い出になりました。女子チームの方も予選では2位通過でしたが、準決勝を1位で突破。こちらも初めての決勝進出となりました。決勝は力及ばず5位となりましたが、名前を呼ばれてのレース。一生の思い出になりそうです。



★社会保険協会 健康づくりバレーボールあまみ大会

令和5年9月10日



奄美市太陽が丘体育館にて「第14回健康づくりバレーボールあまみ大会」が開催されました。

虹の丘は混成の部で出場し準優勝となりました。近年のコロナ禍によりバレーボール大会も4年振りの参加となりました。しっかりした練習時間も取れないままでしたが、参加職員皆で協力しあい、楽しく大会を終えることが出来ました。また次の大会に向けて、健康を保ちながら楽しく参加していきたいと思ひます。

★敬老会

令和5年9月16日

令和5年9月16日(土)午後2時より「虹の丘敬老会」を開催しました。感染症への対策を取りながらの開催で、今年度は2階3階とそれぞれのフロアーにて開催しました。米寿の祝いは4名(乾英世様、栄ミキコ様、平ミヤ子様、田中シゲ子様)、新百歳の祝いは1名(窪ハルエ様)、百歳以上の方々5名(碓山マツエ様、海老原フサ様、治井政子様、伊地知サヨ子様、大窪アイ子様)、それぞれに祝い唄から記念品贈呈、職員余興に六調と大いに盛り上がりました。2階職員余興の傘回しでは、傘回しの由来が披露され、何事も丸く収まる鞠をスタートに金回りが良くなる金輪、ますますの繁盛を願い枱を回すという順番だそうです。





奄美の薬草



薬草研究

奄美の自然を考える会顧問 田畑 満大

<タマシダについて>

タマシダと言えば、奄美群島では広く分布しておりますが、薬用としてはほとんど聞いた事がないです。時々鑑賞用に用いたり、生花として用いていることはご存じだと思います。



最近のAPG分類体系では、タマシダ科(新エングラ分類体系ではシノブ科)タマシダ属タマシダです。和名の語源は「玉羊歯」(玉シダ)の意味で匍匐茎についている球状の塊茎に由来していると言います。中国名は「腎蕨」と表記されています。何か腎臓に関係がありそうですね。学名: *Nephrolepis cordifolia* (L.) C. Presl です。

奄美群島の各島々の集落方言名ですが、集落毎の調査がまだ不十分です。皆様方の集落名と方言名が分かる方は連絡ください。クガワラビ、クウガワラビ(タマシダに対する固有名詞で岡前、松原)、クガワラビ、スグイワラビ、スーグリワラビ(徳之島)、スグイワラビ、スブンダマ(沖永良部島)、タマゴクサ、タマワラビ、マンガ、ミンギョクサ、メンギョクサ(奄美大島)、ワラビグサ(与論島)、タチワラビ(喜界島)、ワラビ、タマゴワラビ(奄美群島) 以上が方言として知られています。

日本での分布は、本州の伊豆半島から九州、小笠原諸島、南西諸島に分布し、国外では、中国、台湾、東南アジア、ポリネシア、アフリカなどに分布します。

利用なさりたい時には、庭の片隅に栽培されると良いでしょう。それでは、「沖縄の薬草百科」(多和田真淳・大田文子共著)によりますと、【薬効】として、①膀胱炎 ②尿道結石 ③五淋白濁(膀胱に熱があって病気が発生し、小便が白く濁る) ④扁桃腺炎 ⑤リンパ腺などに対し、〔使用方法-ⅰ〕(①-1日分) 沸騰させた水(5合5勺→1ℓ)に、

タマシダの葉の乾燥物ひとつかみ(10g)を入れ、水が半分になるまで煎じ、1日3回服用する。〔使用方法-ⅱ〕(②③共通-1日分) 沸騰させた水(7合→1.3ℓ)に、タマシダの葉の乾燥物ひとつかみ(10g)、トウワタの乾燥物ひとつにぎり(5g)、ウマゴヤシの乾燥物ひとつにぎり(5g)を入れ、水が半分ほどになるまで煎じ、1日3回服用する。〔使用方法-ⅲ〕(④⑤共通-1日分) 沸騰させた水(7合→1.3ℓ)に、タマシダの乾燥物ひとつにぎり(10g)、カキドオシの乾燥物ひとつにぎり(5g)、クミスクチンの乾燥物ひとつにぎり(5g)、リュウキュウクロウメモドキの乾燥物(5g)を入れ、水が半分ほどになるまで煎じ、1日3回に分けて服用する。

次に、参考資料として沖縄県農林水産部(2016~2018)、沖縄県産山の恵み地域資源活用事業委託業務報告書を見ますと、タマシダの塊根を食用にしたり、生花材として広く利用されている様です。また、どのような病気に使用しているかを見ますと、膀胱、下痢、咳、産後のむくみ、腸炎、腎臓、乳房の化膿性炎症に効果があるといわれているとのこと。成分まで科学的に分析されております。栄養分として、ビタミンA、B1、B2、C、E、K、食物繊維などが検出されております。機能性成分(1)として、抗酸化成分ポリフェノールなどのDPPHラジカル消去活性試験など、機能性成分(2)では、項目ごとに見ますと糖尿病と抗癌に対して効果が認められた様です。(詳しくはネット上に公開されていますのでご参照してください)。

沖縄百草百科の中で、トウワタ、カキドオシ、リュウキュウクロウメモドキを用いておりますので、簡単に取り上げておきます。

※キョウチクトウ科トウワタ属トウワタ。学名: *Asclepias curassavica* L. 中国名: 馬利筋、尖尾鳳。生薬名: 蓮生桂枝花(レンセイケイシカ)。薬用部位: ①全草、②根。成分: 強心配糖体(asclepin calotropin)、ステロイド(uzarigenin)。薬効と用途: 全草を下剤、吐剤として用いるほか、乳腺炎、気管支炎に用いる。根は発汗剤、駆風剤、駆虫剤にする。以上はブラジルでの利用法である。中国では全草を気管支炎、扁桃腺炎などに用いる。薬用にされるが、含有成分のアスクレピンは有毒であるため利用は控えるべきである。(熊本大学薬学部薬草園植物データベース)より。 《7ページへ続く》

別資料で、全草に有毒配糖体 asclepidin を含み、生葉は駆虫・発汗に、花は止血に、根は催吐性を有する vincetoxin を含む根はトコソの代用品とされる。(栽培)、※シソ科カキドオシ属カキドオシ。学名：Glechoma hederacea L. で、「日本薬学会」のネット上での説明を引用しますと、煎液は腎臓病や糖尿病、腎臓結石、膀胱結石、小児の疳に用います。湿疹には濃い煎じ液を患部に塗布します。また、カキドオシには胆汁分布促進や血糖降下作用があり、胃炎や酸性消化不良などの消化器系疾患にも有効であると言われています。

その他、カキドオシは壊血病の予防と強壮薬として用いられ、水虫やたむしには生の葉を何回も擦り込むと良いようです。(栽培)、※シソ科ネコノヒゲ属ネコノヒゲ、クミスクチン(マレー語)とも呼ばれる。栽培。学名：Orthosiphon aristatus(Blume)Prain、主な成分が、ロズマリン酸はポリフェノールの一種で、抗酸化作用があるため生活習慣病予防や、老化防止の効果が期待されています。また、ロズマリン酸には、花粉症などのアレルギーを軽減する効果とも言われています。カリウムはミネラルの一つで、体内のナトリウムと作用するため無くてはならない栄養

素の一つです。カリウムは利尿作用があり、体内にたまった余分な水分やナトリウムを排出する動きがあることからむくみの改善や、血圧を下げる効果が期待されます。カリウムを多く含むため高カリウム血症が起きる恐れのある方は摂取を控える。

※クロウメモドキ科クロウメモドキ属リュウキュウクロウメモドキ、方言名：オンカキヤ、カワザクラ、コーザクラ(奄美大島)、ナベハツキヤ(加計呂麻島)、ヤマザクラ、ヤマジャクラ(岡前、松原)、ヤマザクラ(沖永良部島)学名：Rhamnus liukiensis(E. H. Wilson)Koidz. で、「亜熱帯生物資源データベース」より、伝承：淋巴腺、婦人病、神経痛、リュウマチ、子宮出血に使用すると言う。

「奄美群島野生生物データベース」では、根を感冒の咳、腸炎、下痢に使い、全草を腎臓や膀胱の病気、乳房の化膿性炎症、産後のむくみなどに用いる。根茎には、デンプンを含む。若葉を食用にする所があります。以上いろいろな資料を拾い出して見ましたが、さらなる科学的な資料を見つけ出し、活用されることを望みます。

なぎさ園だより

令和5年7月29日

★地域交流八月踊り

7月29日に地域の方々にお越しいたいて八月踊りを披露してもらいました。コロナ禍で中止を余儀なくされ、4年ぶりの開催となりました。この間で32名の入所者が入れ替わっており、半数以上は初めてのイベントとなりました。当時は市内でコロナが流行っていた為に感染対策として距離をとっての披露だったので直接触れ合うことはできませんでしたが、パワフルな踊りに圧倒されたり、見真似で踊ったりして楽しい時間を過ごしていました。



★敬老祝賀会

令和5年9月13日

9月13日に敬老祝賀会を開催いたしました。4年ぶりに来賓として奄美市長、大島郡医師会長、社会福祉協議会長、地域町内会長、愛の浜園施設長を招待し、外部から祝い唄と祝舞の方々にもお越しいたきました。普段のイベントとは違った雰囲気、入所者の皆さんは緊張した面持ちで会に臨んでいましたが、余興になるとステージを食い入るように見ており笑顔や笑い声が出て楽しんでいる様子でした。いつまでもお健やかに過ごされる事を願っています。



学術講演会・研修会等のご案内

- ◆10月17日(火)18:55～ 大島郡医師会館4Fホール(※オンライン併用)

【大島郡医師会学術講演会】(日本ペーリッガ-インゲルムとの共催)
 座長: 県立大島病院臨床研修センター長兼総合診療科部長 森田 喜紀
 一般講演『間質性肺疾患の治療経験』
 演者: 奄美中央病院呼吸器内科 堀 昭作
 特別講演『間質性肺疾患の診断と治療のポイント
 ～線維化性間質性肺炎の早期発見・治療の重要性～』
 演者: 久留米大学医学部内科学講座呼吸器・神経・膠原病内科学部門助教 財前 圭晃
- ◆10月30日(月)19:00～ 大島郡医師会館4Fホール(※オンライン併用)

【大島郡医師会共催学術講演会】(アステラス製薬・AMZ インとの共催)
 座長: 県立大島病院循環器内科部長 今村 春一
 特別講演I『鹿児島Style for ACS ～ALL鹿児島で取り組む脂質連携パス～』
 演者: 鹿児島大学病院心臓血管内科診療講師 神田 大輔
 特別講演II『最新のGLおよびエビデンスから読み取る虚血性心疾患の最適治療とは?』
 演者: 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心臓血管・高血圧内科学分野教授 大石 充
- ◆11月10日(金)19:00～ 大島郡医師会館4Fホール(※オンライン併用)

【脳卒中トータルケアセミナーin奄美】(第一三共との共催)
 座長: 稲医院院長 稲 源一郎
 一般講演: 『奄美での脳卒中診療の経験と脳卒中再発予防について』
 演者: 県立大島病院脳神経内科部長 徳浦 大樹
 特別講演: 『当院の急性期脳梗塞治療の現状と脳卒中後神経障害性疼痛について』
 演者: 鹿児島市立病院脳神経内科科長 宮下 史生
- ◆11月13日(月)18:30～ ※Web配信

【循環器・代謝 Web Seminar in Amami】
 (日本ペーリッガ-インゲルム・日本イライリとの共催)
 基調講演『心不全パンデミックへ立ち向かうSGLT2阻害薬』
 座長: 県立大島病院循環器内科部長 今村 春一
 演者: 天陽会中央病院 加治屋 崇
 特別講演『合併症進展を抑える糖尿病治療を考える～エビデンスと実臨床から～』
 座長: 県立大島病院臨床研修センター長兼総合診療科部長 森田 喜紀
 演者: 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科講師 松下 隆哉
- ◆11月17日(金)19:00～ 大島郡医師会館4Fホールほか離島中継会場

【第14回地域医療シンポジウムin奄美】
 講演『がん患者の栄養の考え方』
 演者: 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科地域医療学分野教授兼医学部長 大脇 哲洋
- ◆11月18日(土)14:00～ 県立大島病院研修ホール

【第123回鹿児島県地域医学研究会～奄美記念大会～】
 記念講演『これからの日本の医療と自治医大卒業生への期待』
 演者: 自治医科大学学長 永井 良三
- ◆11月20日(月)19:00～ 大島郡医師会館4Fホール(※オンライン併用)

【大島郡医師会学術講演会(仮称)】(第一三共と調整中)
- ◆12月9日(土)15:00～ 大島郡医師会館4Fホールほか離島中継会場

【第11回死体検案・身元確認業務等研修会】

奄美の医療雑話

ヤーナレがソトナレ

「家慣れが外慣れ」

元名瀬市立奄美博物館長 林 蘇喜男

<61>

奄美の「ことわざ」は、花は香りがいのちだ、枝ぶりはいらぬ。花なりば匂い、枝ぶりはいらぬ。なりふりやいらぬ人やこころ。と、島唄の教訓が多い。「歌半学」という、先祖からの子々孫々に語り継がれてきた教訓が「ことわざ」

の大半を占めていると言っている。人は、小さいときに身につけた習慣がいかにかに大切なことか大人になつてから社会に役立ちます。子供は、家庭の雰囲気の中で、しつけられ、人間としての「しつけ」の中で成長していきます。「氏よ

り育ち」と言います。人間の成長は、家庭でしっかりと教育されていき、社会の中では更に「人間観察力」が育成されて、謙虚な気持ちで、周囲の人々に感銘を植え付けることとなります。小さなときに身につけた習慣・躰は、外でもまっすぐ出る。

私の出生の日は五月二十七日で、昔の言葉では海軍記念日だと言われて育ちました。かつて日本海軍の提督山本五十六元師の至言に「ヤツテミセテ イツテキカセ

編集後記

大島郡医師会だより第99号をお届けします。令和元年度を最後に中止されていた大島郡医師会主催の「救急医講演会」が、4年ぶりに新築されたアマホームPLAZAで開催された。6月7月にかけて感染者数が増加傾向であったことから開催に踏み切れず準備が遅れたこともあり、講演のみの開催となった。県立大島病院麻酔科部長の大木先生に血液供給体制整備所の設置について、同じく臨床研修センター長兼総合診療科部長森田先生には「新型コロナウイルスを越えてこれからの奄美」と題しての講演をしていただき予想を上回る約140名の市民の皆さんに聴講していただいた。◆今回離島からの寄稿をお願いしたところ徳島の宮上病院の併設型介護老人保健施設ササンコートで介護職として

クチヌ ハガレイバ スイグン クチムスビ スイレイ 「婚約が成立したら、すぐ、口結びをやら」 嫁貴いで仲人は幾度も女性宅を訪れたものです。承諾が得られそうなのは、フィスコ口酒(結婚成立の証として準備した懐に入れてある酒)です。口結びをやりなさいと言っています。口結びは婚約発表ということになります。イシャサマヌ クスリヨツカ

クアマガヌ カオドゥクスリ 「お医者様の 薬よりも 子や孫の 顔が薬になる」 入院したおばあさんが看護師さんの指示で薬を飲んでいました。そこへ娘が孫を連れてお見舞いに来たら、おばあさんは、「子や孫の顔が何よりも薬じゃ」と大喜びでした。(参考文献・シマのことわざ) ムンヌシリ ハテヤネン 日高潤郎著

の「救急医講演会」が、4年ぶりに新築されたアマホームPLAZAで開催された。6月7月にかけて感染者数が増加傾向であったことから開催に踏み切れず準備が遅れたこともあり、講演のみの開催となった。県立大島病院麻酔科部長の大木先生に血液供給体制整備所の設置について、同じく臨床研修センター長兼総合診療科部長森田先生には「新型コロナウイルスを越えてこれからの奄美」と題しての講演をしていただき予想を上回る約140名の市民の皆さんに聴講していただいた。◆今回離島からの寄稿をお願いしたところ徳島の宮上病院の併設型介護老人保健施設ササンコートで介護職として

(T・N)